

第46回横浜労災病院地域医療支援委員会議事録

- 【開催日時】 平成30年5月30日(水) 19:30~20:30
【場 所】 横浜労災病院 管理棟地下大会議室
【司会進行】 恵比須委員長(議事の進行)
深澤事務局次長(議事以外の進行)
【出席委員】 恵比須委員長 内藤副委員長 清水委員 岩田委員
池田委員 原委員 大山委員 山本委員 保刈委員
池谷委員 坂本委員 安江委員 高野委員
【欠席委員】 近藤委員

1 開会

2 病院長挨拶

3 議事

(1) 入院・外来患者数等実績報告(平成29年度3月累計:松本連携係長より説明)

1 紹介・逆紹介件数(年度推移)

紹介及び逆紹介件数(月平均)は、平成25年度1578.4件/1146.3件、平成26年度1611.8件/1212.4件、平成27年度1643.1件/1282.9件、平成28年度1,626.3件/1,473.5件、平成29年度1620.4件/1570.1件(3月累計)で推移している。

2 紹介率・逆紹介率(年度推移)

紹介率及び逆紹介率は、平成25年度82.2%/49.6%、平成26年度80.3%/60.4%、平成27年度83.8%/65.4%、平成28年度88.8%/80.4%、平成29年度89.1%/86.4%(3月累計)である。紹介率、逆紹介率ともに順調に伸ばしている。

3 入院患者数・平均在院日数

1日平均入院患者数及び平均在院日数は平成25年度551.6人/10.6日、平成26年度571.7人/10.7日、平成27年度565.2人/10.5日、平成28年度551.4人/10.3日、平成29年度546.5人/10.1日(3月累計)となっている。平均在院日数の短縮がみられる。

4 外来患者数(延患者数・実患者数)

1日平均外来患者数(入院中外来患者数/外来時他科受診患者数/実患者数)は、平成25年度1815.8人(218.1/357.5/1240.2)、平成26年度1897.9人(271.7/403.8/1222.4)平成27年度1938.8人(287.9/409.1/1241.8)平成28年度1907.0人(298.6/394.1/1214.4)平成29年度1867.0人(321.3/367.4/1178.3)(3月累計)となっている。

5 救急患者数・救急搬送件数

月平均救急患者数及び救急搬送数は平成25年度2157.4人/524.3台、平成26年度2272.7人/577.5台、平成27年度2228.5人/558.8台、平成28年度2153.2人/546.8台、平成29年度2235.4人/584.1台(3月累計)と推移している。

6 即入院割合

即入院割合(月平均新入院患者数/救命救急センターを經由して入院した患者数)は、平成25年度33.9%(1580.2/535.1)、平成26年度33.7%(1620.7/545.5)、平成27年度34.2%(1636.8/559.3)平成28年度32.9%(1630.8/536.8)平成29年度28.0%(1638.6/458.8)(3月累計)と減少している。

7 分娩件数・ハイリスク分娩件数

月平均分娩件数(通常分娩件数/ハイリスク分娩件数/ハイリスク分娩率)は平成25年度73.6件(61.5件/12.1件/16.4%)、平成26年度73.1件(59.4件/13.7件/18.7%)、平成27年度77.9件(63.6件/14.3件/18.4%)、平成28年度75.4件(63.3件/12.1件/16.0%)平成29年度70.2件(56.8件/13.4件/19.1%)(3月累計)と全分娩件数に占める割合が増加している。

8 分娩における診療圏地域別患者構成比

当院における分娩の診療圏地域別患者構成比は、病院所在地である横浜市港北区は41.6%で横浜市北部医療圏の半数を占め、緑区は減少し神奈川区や都筑区が伸びている。横浜市北部医療圏6区で約8割となり地域の産科医療に寄与している。

9 NICUへの入室経路および転帰先

NICUの入室経路(母体搬送/出産前から当院でフォローして出産/新生児搬送/その他)は、平成27年度267件(43件/163件/49件/12件)、平成28年度212件(32件/129件/42件/9件)、平成29年度220件(33件/140件/41件/6件)(平成30年3月累計)となっている。

転帰先(当院から退院/転院/その他)は、平成27年度267件(243件/21件/3件)平成28年度212件(196件/14件/2件)平成29年度220件(210件/10件0件)となっている。

10 ノバリス治療実績

月平均患者数は平成27年度15.4人(泌尿器科3.5人/呼吸器外科0.6人/脳神経外科11.3人)、平成28年度12.8人(泌尿器科4.0人/呼吸器外科1.3人/脳神経外科7.5人)平成29年度15.7人(泌尿器科4.7人/呼吸器外科0.7人/脳神経外科10.3人:3月累計)と増加している。

11 ダヴィンチ治療実績

年間実績と月平均患者数は平成26年度92件/7.7人、平成27年度121件/10.1人、平成28年度104件/8.7人、平成29年度156件/13.0人(3月累計)となっている。なお、平成30年度の診療報酬改定に伴う適用疾患の増加により、外科や産婦人科でダヴィンチの治療増加が見込まれる。

(2) 登録医制度(共同利用制度)の実施状況報告

(松本連携係長より説明)

1 登録医の登録状況

平成30年3月31日現在の登録医療機関数は558医療機関(医科424医療機関、
歯科134医療機関)742名登録して頂いている。3月以降6医療機関が登録。

2 共同利用の利用状況

(平成29年度3月累計)

(参考28年度実績)

CTの検査目的の利用件数	306件	259件
MRIの検査目的の利用件数	161件	109件
上部消化管内視鏡検査目的利用件数	17件	18件
入院患者の共同診療件数	0件	0件
図書室の利用件数	2人	0人
研修会や症例検討会への参加人数	1000人	644人

(3) 第16回市民公開講座について(開催計画)

(松本連携係長より説明)

① 日 時：平成30年7月13日(金)14:00~16:00

② 場 所：横浜ラポール(ラポールシアター)

③ テー マ：知って得する健康講演会

第1部「すい臓がんを知ろう」～早期診断から治療まで～

講師：消化器内科副部長 関野 雄典

第2部「膝・股関節の痛みでお悩みの方へ～その原因と治療法～」

講師：整形外科・人工関節外科副部長 小泉 泰彦

参加者見込は300名。広報については、区役所や医師会などへのチラシ配布やポスター掲示、広報よこはまやタウンニュース等で周知する予定。

(4) 第21回登録医の会について(開催計画)

(松本連携係長より説明)

① 日 時：平成30年7月24日(火)19:30~21:30

② 場 所：新横浜グレイスホテル

③ 対 象：562医療機関(平成30年4月末登録医療機関数)

④ プログラム

(第1部 登録医の会)19:30~

1、当院の脳卒中に対する血管内治療体制について(仮)

(脳神経血管内治療科 戸村 九月)

2、当院の診療トピック(仮)

日本医師会生涯教育講座への申請を行う予定

(第2部 意見交換会)20:30~

(7) 質疑応答・意見交換

・入院、外来患者数等実績報告についての質疑

(山本委員) ダヴィンチによる治療実績が増加してくると入院期間がさらに短縮されるということか。

回 答→ ダヴィンチによる手術は、現在腹腔鏡にて行われている手術の為、ダヴィンチに移行しても、入院期間には影響しないと思われる。

(内藤副委員長) 入院患者の即入院の数が減少しているが、これは近隣の医療機関と連携しているからなのか。それとも患者数が減っているからなのか？鶴見区では民間の病院と連携し、軽症患者の転院を薦めている。横浜労災病院でもそのような試みを行っているため、即入院が減っていると理解してよいか。

回 答→ 必ずしも軽症患者の転院を推し進めている訳ではない。当院は1～3次まで幅広く救急患者の受け入れ体制を整えている。

(内藤副委員長) 鶴見のモデルを参考に、横浜市北部の6区が協力し合い、病院に軽症の患者が搬送されてきても、他の医療機関へ転院ができるシステムを構築できればいいと思う。

(保刈委員) がん治療に対しては口腔ケアが有効である。横浜労災病院の口腔外科でなければ出来ない治療と、地域の歯科医師で出来ることを見極めて頂ければ、紹介・逆紹介が増えるのではないか。

回 答→ 口腔ケアについては、地域の医療機関との刷りあわせが必要であり、現在調整中である。口腔ケア実施のため、当院から地域の歯科医師に依頼書を出さなくてはいけないため、これらの書式の統一化や、院内外医師への勉強会などを行うことにより周知徹底を図り、システムチックな運用が出来るように準備を進めている。

・登録医制度（共同利用制度）の実績報告についての質疑

(高野委員) 登録医は医療機器の利用に限られるのか。災害時に登録医の制度があれば病院の医師と共に診療ができるものなのか。

回 答→ 登録医の医師が当院の医師と共同で診療する仕組みがあるが、実績は少ない状況。医療機器利用の他にも当院の図書室や研究室も利用できる制度となっている。

(大山委員) 済生会横浜市東部病院では、FAXで各登録医に宛てに案内を送っており、当院の登録医であることを周知できるようにしているとのこと。横浜労災病院でもやっていただければいいのではないか。

回 答→ 当院でも登録医になられた診療所については、登録医療機関証はお送りしている。案内については参考にしていきたい。

(恵比須委員長) 登録医になって頂くと、紹介・逆紹介などのやりとりがしやすくなる。地域の開業医へ病院での治療が終わった患者を戻して頂く上で、登録医であることは大事である。昭和大学横浜市北部病院では、登録医になった先生を紹介していると聞いている。

(大山医師) 病院ニュースで何名かの登録医の医師の紹介をしている。

(恵比須委員長) 横浜労災病院でも登録医へ逆紹介の患者を案内して頂く事で、病院間が円滑に進むのではないかと。連携の強化や医療の効率化、在院日数を短縮する上で登録医のメリットがあるのではないかと。

回 答→ 当院でも患者さんに逆紹介の案内を周知している。大病院志向の患者の方向性を変えていくことが課題である。院内報についても、登録医になった医療機関について今後載せて連携を強めたいと思う。

・市民公開講座や登録医の会、意見交換会についての質疑

(病院長) 熊本の済生会病院では講演会を年間はかなり開催している。湘南鎌倉病院も講演会の開催案内をしている。当院も、市民向けの講演会のほかにも医師会からの依頼があれば協力していきたい。

・その他の質疑について

(池田委員) 訪問診療している認知症の患者で、同疾病で2ヶ所の医療機関にかかった事例がある。貴院はどのような対応をしているか今後の参考にしたい。

回 答→ 院外処方については、港北区薬剤師会の坂本先生と定期的に情報交換としており、処方箋を通じて重複がないよう連携を行っている。ただ患者によって、医療機関ごとにお薬手帳をもらっていく実態がある。お薬手帳の使い方についても院外薬局と連携をとり、注意喚起や指導を進め日々努力していきたい。

(坂本委員) 患者は保険診療で治療されており、処方の実態を知っているのは保険者ではあるが、複数の医療機関から同じ処方のレセプト請求がきても、把握が難しい。改善するには、薬剤師が患者自宅に訪問診療をして、処方状況を確認することが必要と思う。

(池田委員) 複数の医療機関で同じ処方をする事については、保険組合で指摘されて返戻を受けることはないのか。

(高野委員) 生活保護については、かなりの重複受診がある場合には、市から処方している医療機関へ止めるよう連絡している。認知症の患者については、ケアマネージャーが受診状況を把握しているので、処方の重複についてはMSWを介して状況を伝えて欲しい。

(池田委員) 当院でもこれを契機にケアマネージャーを導入した経緯がある。